

病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式を行いました

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、院内の案内や環境整備、患者図書室「ふらっと」の補助、コンサート等様々な場面で個人および団体のボランティアの皆さんにお世話になっていきます。平成26年11月28日(金)、井川病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました。

贈呈式終了後、引き続きボランティアさんとの懇談会が行われ、皆さんから様々な提案や意見をいただきました。

また当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問合せください。



問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL 0853-20-2290

ワークライフバランス (WLB) 支援室

相談室開設式・WLB川柳表彰式を行いました

WLB支援室では、【ワークライフバランス～仕事と生活の調和～】を考えていただくきっかけになればとの思いから、11月23日の勤労感謝の日を中心とした1週間をWLB週間としました。当院ではWLB啓発のため、WLB川柳募集、カイゼンザウルスメモを利用したWLBを実現するための「各部署での取り組み」募集・掲示、早くカエル!運動を実施しました。

WLB週間に併せ、11月20日(木)WLB支援室相談室が当院外来中央診療棟3階にオープンし、開設式並びにWLB川柳表彰式を行いました。病院長、秦WLB支援室長からあいさつ後、「ワークライフバランス支援室」の看板を相談室入口に上掲しました。

続いて行ったWLB川柳表彰式では、応募総数72首から、優秀作品に選出された5名を表彰し、副賞を渡しました。作者に作品への思いを語ってもらい、賑やかな表彰式となりました。



看板上掲



カイゼンザウルスメモを利用した各部署での取り組み発表



老年科(老科婦人科)

- 井川 病院長賞 “ありがとう” 家族の協力 職場の理解
- 木下 副病院長賞 坐薬いれ がんばる私は もう古い
- 山口 副病院長賞 ONとOFF 切り替え今日も いい仕事
- 秦 副病院長賞 キャリア積み 家では 子供と 積み木積む
- WLB 支援室賞 持ち帰る 仕事じゃなくて 達成感
- 看護部WLB賞 残業はさせない しない みなカエル
- オーバーワーク賞 医師たるは 月月火水木金金
- 努力賞 哺乳瓶 温めながら 査読する
- 良きパパ賞 お弁当 家族の分も 僕つくる



NEWS

CONTENTS

年頭のごあいさつ 2015

病院長 井川 幹夫

MCU(C病棟7階フロア)について

病院ボランティア表彰式
感謝状贈呈式を行いました

ワークライフバランス(WLB)支援室
・相談室開設式
・WLB川柳表彰式を行いました





年頭のごあいさつ 2015

病院長 いがわ みきお 井川 幹夫

あけましておめでとうございます。昨年は地域の医療機関から多くの患者さんをご紹介いただき、また職員の皆様の尽力により、過去最高の病床稼働率、診療費用請求額を記録しました。先進医療では、肝臓内科のIL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価（C型慢性肝炎）と腎臓内科のコレステロール塞栓症に対する血液浄化療法が加わりました。今年も大学病院としてのミッションを果たすために、先進的医療・高度医療の提供、がん医療と急性期医療の充実、優れた医療人の養成等を継続的に進めます。がん医療では、都道府県がん診療連携拠点病院である当院に県内拠点病院のハブ機能が要求されており、精緻な手術、新規薬剤による化学療法、IMRT（Intensity Modulated Radiation Therapy）、小線源療法、緩和ケアなど高水準の集学的がん治療を推進し、拠点病院間の連携体制を整え、県全体のがん医療水準をさらに向上させます。臨床研究では臨床研究センターを設置していますが、今年には更に体制整備を図って治験件数を増加させ、研究者主導臨床試験を推進するとともに、臨床研究中核病院、橋渡し研究加速ネットワーク拠点との連携、地元企業との産学連携を強化します。人材育成では、文部科学省事業として採択された総合診療医の育成プログラム「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」に基づいて地域包括ケアのリーダーとなる医師の養成を図っています。医師会、関連の病院、介護・福祉施設、自治体の皆様方のご指導をよろしくお願ひします。

今年も当院が地域で果たすべき役割を十分認識し、地域の医療に一層貢献できる病院となるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。



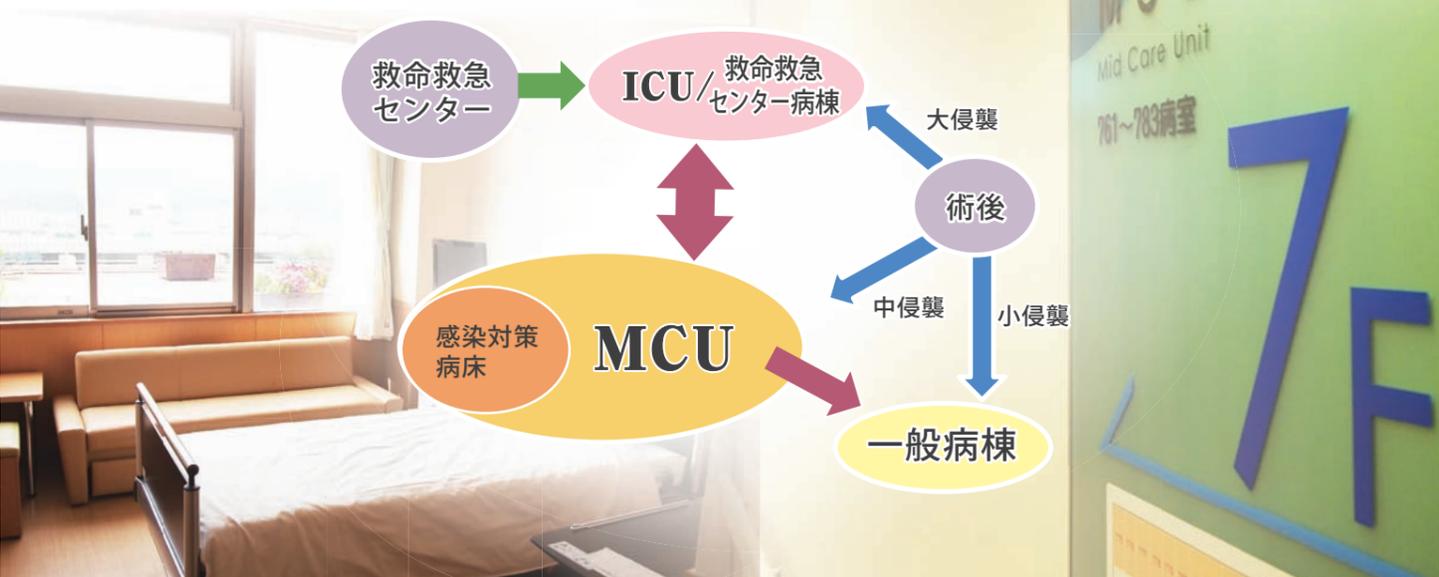
MCU (C病棟7階フロア) について

MCU病棟管理委員会委員長 呼吸器・化学療法内科 診療科長 いそべ たけし 儀部 威
 看護師長 やまもと むねこ 山本 宗子
 呼吸器・化学療法内科 病棟医長 はまぐち しゅんいち 濱口 俊一

当院のMCU(Mid Care Unit)は、世界的にも初の命名となる病棟で、二つの特殊機能を有する病床からなります(図)。一つ目はICU(Intensive Care Unit) / 救命救急センター病棟と一般病棟の中間的なケアを行うMCU病室28床(4人部屋:3室、個室:16室)で、二つ目は感染症対応病床(個室:4室)で、結核などの空気感染、新型(鳥)インフルエンザなどの感染対策、治療に対応します。MCU病棟に入室する患者さんは外科系では主に、侵襲性が中等度の術後患者さんです。また、救命救急センターの機能を有する当院は、院外からの救急患者さんは原則として救命救急センター病棟へ入室しますが、病状が安定した後、一般病棟へ移ることが困難であればMCUへ転棟します。したがって、MCU病棟には、超急性期の治療が行われた後に呼吸循環動態が安定した患者さんについて、引き続きのモニタリングと全身管理、病状回復を支援することが可能な機能が備わっています。術後患者さんと感染病床の管理のため消化器外科と呼吸器・化学療法内科の病棟医長がMCU看護師長を中心とした看護チームとともに病棟運営の管理業務を行っています。

つまりMCUは当院のように診療機能分化が進む先進医療病院における、つなぎ役としての機能を果たすとともに、感染対策にも十分に対応したまさに次世代病棟と言えます。今後は、MCU病棟の特徴を生かした医学教育や研修が提供可能な場としての機能を果たす必要があります。医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション部、NSTなどと協働し、具体的な診療、教育プログラムが構築できればと思います。院内の連携を深め、MCU病棟の患者支援体制を、より良いものにできればと思います。

● MCUの概要 ●





お知らせ

患者アンケート調査結果について

当院では、患者さんからいただいた貴重なご意見を今後のサービス向上に役立てるため、アンケートを行っています。外来は3ヶ月ごとに実施しております。

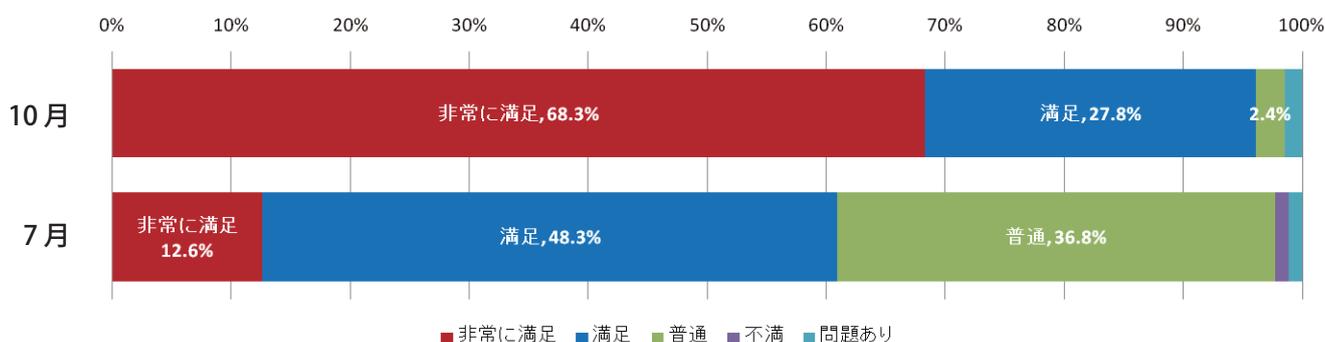
199名の患者さん、ご家族の方にご協力いただきました10月の外来アンケート結果は、7月の結果と比較すると、医師や看護師など全体的に良い評価を受け、特に「当院全体」の「非常に満足」は68.3%と高い評価でした。入院は毎月実施しており、10月のアンケート結果も、医師や看護師など全体的に良い評価を受けました。

また、時間帯により外来患者さん専用の「立体駐車場」に駐車できないといった意見・ご要望が多く寄せられておりますので、外来駐車場の増設を予定してします。

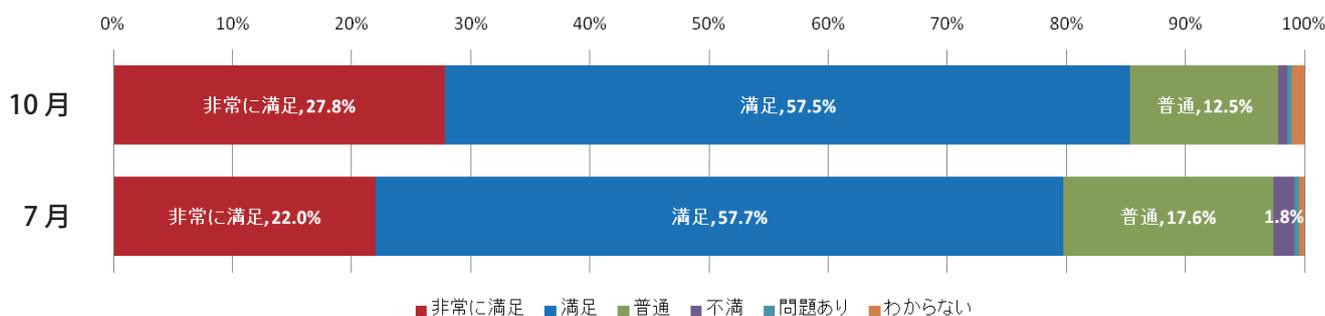
病院玄関待合ホールへ「患者さんの声」投函箱を設置しておりますので、皆様のご意見やご要望をお聞かせ下さい。

● アンケート結果(抜粋)

(外来) 当院に満足されているか



(入院) 当院に満足されているか





島大病院ニュース
2015年1月

お知らせ

神経内科 ～進歩する神経内科治療の現況～

やまぐち しゅうへい
神経内科 診療科長 山口 修平

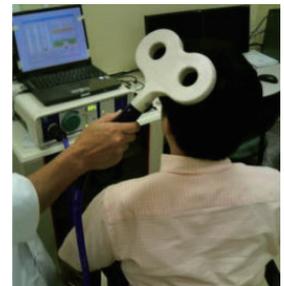
当科が扱っている疾患は、脳卒中、パーキンソン病や多系統萎縮症などの神経変性疾患、認知症、多発性硬化症、脳炎や髄膜炎等の感染症、さらに筋・末梢神経疾患など極めて多彩であります。近年の神経治療学の進歩はめざましく、治療が可能な疾患が増加しています。当科でも積極的に最新の治療に取り組んでおり、その一部を以下に紹介いたします。

●脳卒中

超急性期脳梗塞に対して血栓溶解治療(t-PA)が認可されてから9年が経過しました。近年、投与開始可能時間が3時間から4.5時間に延長され、適応症例も増加しています。当科では救急隊と連携を密にし、IPAS (Izumo Prehospital Apoplexy Scale) を開発し、24時間対応でより早期の搬送と治療に取り組んでいます。

●変性疾患

変性疾患の中で頻度の高い疾患はパーキンソン病です。近年多くの治療薬が開発され、患者のADL改善に貢献していますが、進行期には治療に難渋する事も事実です。まだ臨床研究段階ではありますが、希望される患者さんには反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)を積極的に行っており、有効例も増えています。来年度には脳神経外科と共に深部脳刺激治療(DBS)も導入予定です。



反復経頭蓋磁気刺激

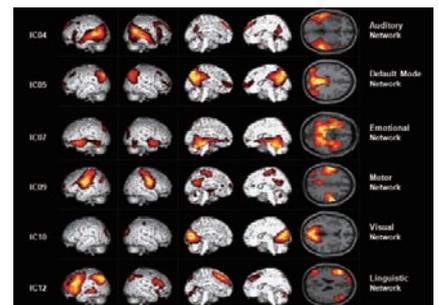
●多発性硬化症

多発性硬化症に対してもインターフェロンやフィンゴリモドといった優れた薬剤が開発され、以前に比して再発・進行の抑制が可能となっており、当科でも積極的に導入を図っています。

●認知症

認知症疾患医療センターの指定を受け、物忘れ外来を中心に診療をおこなっています。正確な鑑別と出来る限りの長期フォローアップを行い、かかりつけ医や介護施設との連携に重点をおき、症状の進行抑制を目指しています。また、安静時機能的MRIを使って早期診断のための先進的技術の開発も行っています。

問合せ先 神経内科(医局) TEL:0853-20-2198



安静時機能的MRIによる脳機能解析

お知らせ

島大病院ニュース

平成27年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2015年1月

お知らせ

脳神経外科

～精密・安全、そして低侵襲な脳神経外科治療を目指して～

あきやま やすひこ
脳神経外科 診療科長 秋山 恭彦

当院の脳神経外科では、320列MDCTや、微小脳血管や神経線維束をも解析可能な高磁場MRIを用いて精度の高い疾患診断をおこなっています(図1)。手術治療においても、術中ケミカルナビゲーション(ICG蛍光血管撮影、5-ALA蛍光色素腫瘍組織判定など)や、イメージガイドナビゲーション(手術操作部位を術前MRI画像中に表示し、顕微鏡画面中にMRIで識別した解剖構造の表示が可能)などにより、血管・組織・解剖位置の術中同定可能なハイテク

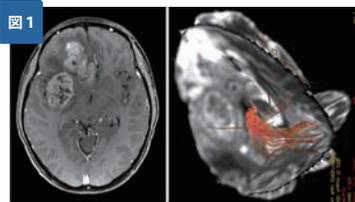
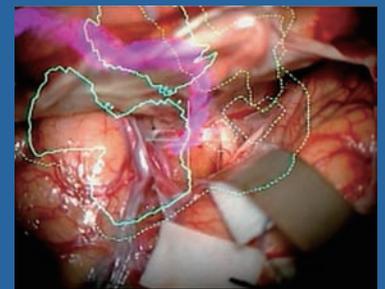


図1 脳腫瘍の3テスラMRI画像と腫瘍周辺の運動神経路(錐体路)画像

技術支援下手術を行っています(図2)。症例に応じては術中持続神経機能モニタリングを行い、精密・安全な手術を目指しています。また、脳神経血管内治療とよばれるカテーテル手術や神経内視鏡による低侵襲手術を実施しており、経皮的頸動脈ステント留置術(血管形成術)は、全国屈指の治療経験を有しています。



図2 イメージガイドナビゲーションによる顕微鏡手術

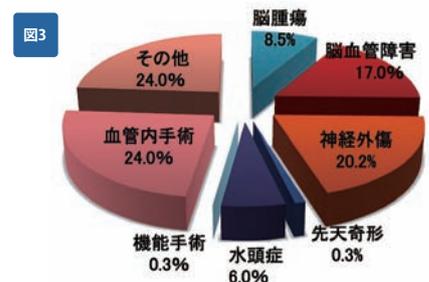


顕微鏡視野内に、術野の深部にある腫瘍や神経血管位置を表示

「脳神経外科」と聞くと、脳卒中や脳腫瘍の手術のみが思い浮かぶかもしれませんが、しかし、脳神経外科は、脳脊髄や末梢神経、それらに関連する血管、骨筋組織などの疾病の予防、診断、治療、機能回復をはかるトータルな診療科です。脳神経外科の主な対象疾患は、①脳・脊髄腫瘍、②脳血管障害(脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳出血、脳梗塞)、③頭部外傷、④中枢神経形成不全(水頭症、2分脊椎ほか)、⑤機能的疾患(顔面けいれん、難治性疼痛(三叉神経痛など)、脳疾患後拘縮、てんかん、(まもなくパーキンソン病治療(DBS)も開始予定)ほかです。

当院脳神経外科は、脳卒中専門医3名、癌治療認定医2名、脳神経血管内治療認定医2名、機能神経外科技術認定医1名により、先進的な脳神経外科診療を実践しています。

問合せ先 脳神経外科(外来) TEL:0853-20-2386



2013年の手術件数(284例)と疾患/手技別割合

お知らせ
島大病院ニュース

平成27年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2015年1月

お知らせ

循環器内科

～高い総合力を生かして予後改善を目指す～

循環器内科 診療科長 田邊 一明
たなべ かずあき

循環器系疾患は緊急性の高いものが多いですが、その中でも最も急を要するのは急性冠症候群です。当院では常に循環器専門医師が「ホットライン」用PHSを携帯しておりますので、急性冠症候群をはじめとする循環器救急患者さんを24時間いつでも迅速に受け入れる体制が整っています。搬送の必要がある症例がありましたらいつでも「ホットライン」にご連絡ください。

当院は日本心血管インターベンション治療学会の研修関連施設に認定されており、少しでも質の高い治療を提供できるよう努力しております。また当院には山陰では唯一、次世代の心臓核医学システムとして注目されている半導体検出器SPECT装置が導入されており、心臓CTと組み合わせることにより非侵襲的に冠動脈のどの部位にどの程度の狭窄病変があり、カテーテル治療などの血行再建を必要とするかどうかを心臓カテーテル検査施行前に診断することが可能です。



心臓CTと心臓核医学検査のFusion画像

高齢化社会を迎え、虚血性心疾患や弁膜症を基盤とした心不全患者は増加の一途をたどっています。それに対しても目先の症状改善だけではなく、いかにして再増悪・再入院を予防するかという視点に立ち、薬物療法、心臓再同期療法、外科手術、心臓リハビリテーションなどあらゆる治療を総動員して集学的な治療を行っています。日頃からカンファレンスを通じて最も適切な治療を個別に検討しながら、心臓外科はもちろんのこと、救命救急センター、ICU専従医師、心臓リハビリテーション指導士らと連帯し、大学病院ならではの高い総合力を生かして日常症例からどんな重症にも対応させていただいております。

今後とも循環器内科の診療にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

📞 **ホットライン**

循環器内科:

070-5672-8109



お知らせ

島大病院ニュース

平成27年1月発行

編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会

問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当

TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

